

防災はやしなか

第7号



防災の日 11月17日(日)

発行日：令和6年12月20日
発行：林中地区自主防災会

11月17日林中地区自主防災会は防災訓練、避難所開設を松南小学校体育館で実施しました。

一部は、午前8時、告知放送を合図に各町会において、強い揺れからわが身を守り、おさまったら家族の安全、火の元の確認。

安否確認カードを玄関に掲示、一時避難場所へ避難、町会に安否を報告。

町会役員は各戸を回りカード掲示と安否不明者の確認、要支援者（想定）を支援者が支援して、二次避難施設へ搬送、また、町会長は避難者4名（想定）を、松南小学校体育館に移送した。



2部は、二次避難施設を松南小学校体育館に設営、告知放送後8時10分、自主防災会役員（23名）は、林中コミュニティセンター（以降コミセン）に集合、点呼後本部・受付セット、ブルーシート、啓発用のぼり旗など開設訓練に必要な備品を資機材庫からトラックに積み込み、搬送し各自は車で移動。

設営は、館内入口に感染予防事前受付、本受付、町会別避難者受入れブース、本部など、各役員が分担された持ち場を設営しました。順調に進み8時50分、予定より早く避難者の受け入れを開始した。



本部は防災士会が中心となり、各町会からの報告（一次避難場所の避難者数及び安否確認カード掲示軒数）を集計し壁に貼出しました。アプリ「結」ネットを使い会員233名に安否確認モードを発信、安否状況の返信を求めた。モードは、相互の連絡はできないがそれぞれの状況や写真などを発信。情報は会員同士閲覧でき、共有できます。



受付訓練終了後、体育館にある防災備蓄庫と施設内の見学をしました。備蓄品はご飯・パン・スープ・水・毛布、簡易トイレそしてマンホールトイレ（一基は障がい者用）が備えられています。災害発生時、コミセンから、発電機など備品の搬送が必要となります。

この後、竹中副部長が避難所開設手順書と「能登半島地震から学ぶ」と題し、講演しました。

避難所の開設運営は原則、市、施設管理者ですが、ともに不在の

場合、避難者が協力し、開設する手順書（マニュアル）作りの解説ビデオを観賞した。

次に中川事務局長より簡易トイレ（お土産用）の取扱い方を説明しました。



その後、スライドで能登半島地震を振り返った。珠洲に実家があり、一人暮らしで高齢のお母さんが被災、ご近所の助けを受け避難、避難生活を送りました。駆けつけた避難所や被害の状況を自身の体験を交えて報告しました。



この後閉会式に移り、吉本市議会議長より総評を受け、訓練を終えました。

避難訓練参加者は、体育館避難者名簿に記録された方54名、役員23名、合計77名。

一次避難所に避難、参加された方205世帯、223名+ペット（犬）1頭、安否確認カード掲示点検戸数1184戸、内掲示戸数510軒でした。ご協力ありがとうございました。

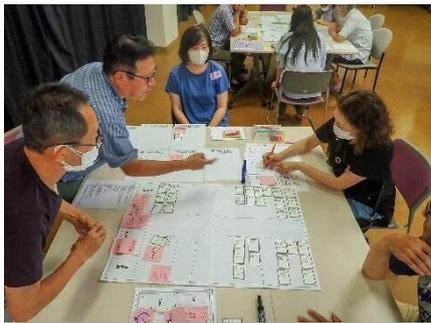


ハグ HUG 避難所運営ゲーム 6月22日

活動報告



避難所を運営するカードゲーム、スタッフになり、チームで様々な問題に取り組みました。とても役に立ち楽しく学びました。



防災キャンプ 8月24日~25日



林中コミュニティセンター軽体育館で避難所体験キャンプを行いました。
荒木啓吾君5年生(平松町)が参加しました。段ボールでお泊りブースを作り、夕食は空き缶でご飯を炊き、美味しいカレーを味わいました。
寝る前に AED 心肺蘇生法指導を受けました。翌朝、8時朝食後解散。熱中症の心配もなく、みなさん楽しく終了しました。



アルミ缶でご飯が炊けるなんて感動!



感想文をいただきました

初めて避難所生活を体験しました。体育館は暑いし地面もかたくて寝づらかったです。僕は1日だったけど被災した人はずっとこの生活なので、大変だと思いました。でもダンボールで家を作ったり、空き缶で米を炊いたりするのが楽しかったです。もし被災した時は悲しい気持ちじゃなくて楽しい気持ちで、みんなが安心出来るように助け合いたいと思いました。今度は違う季節で体験したいです。

荒木啓吾

参加のきっかけは能登半島地震だったとお父さんがお話していました。体育館の床、柔らかく温かくなって、固く冷たい避難所が変わったよ!